

2011年(平成23年)10月15日(土) 13版

希望新聞

26

東北大OB7人

学生支援「海の会」結成

若者の未来を支えたい

震災で進学が難しくなった学生を助けようと、東北大のOB7人が「海の会」を設立し、物心両面からの支援を始めた。代表の飯沼一元さん(68)〔写真〕は、会津藩が組織した「白虎隊」の隊士・飯沼貞吉の孫。戊辰(ぼしん)戦争に敗れた会津藩が若者を国外に留学させ、藩の未来を託した精神を受け継ぐ活動だ。設立メンバーの7人は東北大工学部電子工学科(当時)の大同窓生で、いずれも東京近郊に在住。「自分たちの年金から資金を出し合い、東京から被災地を支援できないか」と考え、首都圏の大学に進学し、将来東北の復興を担う若者に力を貸すことにした。

15～22歳を対象にウェブサ

イトなどで希望者を募り、第1弾として9月から、男子高校生2人への支援を始めた。原発事故で福島県浪江町から東京に避難した2年生と、震災で父を亡くした仙台市の3年生で、それぞれ月10万円を2～4年間支給していく。

飯沼さんは「東京での後見人のような立場で、生活面や精神面の手助けもしたい」と話す。浪江町からの高校生は転校先で友人ができず悩んでいたため、東京に避難した同級生たちとの昼食会を定期的に開いてあげるという。仙台市の高校生は起業家志望で、退職後にベンチャー企業を設立した飯沼さんがアドバイスしていく。

今後も、支援する学生を選考する予定で、希望者を募っている。詳細は「海の会」のサ



イト(<http://www.umihai.okai.jp/>)。問い合わせは飯沼さん☎090・4660・4407。会の趣旨に賛同する支援者は現在35人で、新たな支援者・法人や、寄付も募っている。【上杉恵子、写真も】